

実 技 試 験

☆☆☆解答に当たっての注意事項☆☆☆

- ・ 試験問題については、特に指示のない限り、平成26年4月1日現在施行の法令等に基づいて、解答してください。なお、東日本大震災の被災者等に係る国税・地方税関係の臨時特例等の各種特例については考慮しないものとします。
- ・ 次の各問について答えを1つ選び、その番号を解答用紙にマークしてください。

【第1問】下記の（問1）、（問2）について解答しなさい。

問1

ファイナンシャル・プランニング業務を行うに当たっては、関連業法を順守することが重要である。ファイナンシャル・プランナー（以下「FP」という）の行為に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 社会保険労務士資格を有していないFPが、顧客の質問に応じて、日本の公的年金制度の仕組みと特徴について説明をした。
2. 生命保険募集人の登録をしていないFPが、顧客から相談を受け、将来の必要保障額の試算および加入している保険の見直しを行った。
3. 税理士資格を有していないFPが、顧客から要望を受け、無償で税務書類の作成を行った。

問2

下記は、有馬家のキャッシュフロー表（一部抜粋）である。このキャッシュフロー表に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。なお、計算に当たっては、キャッシュフロー表中に記載の整数を使用し、計算結果については万円未満を四捨五入すること。

<有馬家のキャッシュフロー表>

(単位：万円)

経過年数			現在	1年	2年
西暦(年)			2014	2015	2016
平成(年)			26	27	28
家族/ 年齢	有馬 健太	本人	38歳	39歳	40歳
	満里	妻	39歳	40歳	41歳
	心菜	長女	7歳	8歳	9歳
ライフイベント		変動率	心菜 小学校入学		
収入	給与収入(夫)	1%	472		
	給与収入(妻)	—	95		
	収入合計	—	567	572	576
支出	基本生活費	2%	224		(ア)
	住宅関連費	—	133	133	133
	教育費	2%	36		
	保険料	—			41
	一時的支出	—			
	その他支出	—			
	支出合計	—	457	456	
年間収支		—	(イ)		
金融資産残高		1%	347	(ウ)	

※年齢は各年12月31日現在のものとし、平成26年を基準年とする。

※記載されている数値は正しいものとする。

※問題作成の都合上、一部空欄にしてある。

1. 空欄(ア)に入る数値とその求め方:「 $224 \times (1 + 0.02) = 228$ 」
2. 空欄(イ)に入る数値とその求め方:「 $567 - 457 = 110$ 」
3. 空欄(ウ)に入る数値とその求め方:「 $347 \times (1 + 0.01) + (572 - 456) = 466$ 」

【第2問】下記の（問3）～（問5）について解答しなさい。

問3

下記<資料>の用語に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

<資料>

日経平均株価(225種)	15071円88銭(+125円56銭)	騰落率=+0.840%	3日	東証1部	市場体温計
東証株価指数(TOPIX)	1216.77 (+5.41)	騰落率=+0.446%			
(a)					
売買代金	1871496百万円 (-424842百万円)				
売買高	206966万株 (-44883万株)				
売買単価	904.2円				
売買高上位10銘柄の占有率	25.0%				
上場銘柄数	1800	値上がり 969			
売買成立	1800	値下がり 684 変わらず 147			
新値株(年初来)高値	74	安値 6			
騰落レシオ(25日移動平均)	103.59%				
時価総額	4364502億円 (+19523億円)				
普通株式数(百万株)	400451	1株当たり時価(円) 1089.89			
<金利>					
(c)	新発10年国債利回り	0.640%(+0.015)			
		(333回償、日本相互証券、終値)			
	無担保コール翌日物金利	0.064%(0)			
		(短資協会、加重平均、速報)			

(出所：日本経済新聞2014年4月4日付 マーケット総合1)

- (a)：東京証券取引所市場第一部上場銘柄のうち、代表的な500銘柄を対象にした時価総額指数のことであり、時価総額の大きい銘柄の影響を受けやすい。
- (b)：出来高とも呼ばれる。例えば、売り1,000株と買い1,000株の取引が成立した場合には、売買高(出来高)は2,000株と表示される。
- (c)：新規に発行された償還期間10年の国債の流通利回りのことで、わが国の長期金利の代表的な指標とされている。

問4

下記<資料>に基づく株式の評価尺度に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

<資料>

株価	2,600円
1株当たり年間配当金	39円
1株当たり利益	200円
1株当たり純資産	2,080円

1. 株価収益率（PER）は、株価が1株当たり利益に対して何倍であるかを表す指標で、「 $2,600円 \div 200円 = 13$ （倍）」である。
2. 株価純資産倍率（PBR）は、1株当たり純資産が株価に対して何倍であるかを表す指標で、「 $2,080円 \div 2,600円 = 0.8$ （倍）」である。
3. 配当利回りは、1株当たり利益に対する年間配当金の割合を表す指標で、「 $39円 \div 200円 \times 100 = 19.5$ （%）」である。

問5

田中利彦さんは、R A銀行（日本国内に本店のある普通銀行）に下記<資料>の預金を預け入れている。仮に、R A銀行が破たんした場合、預金保険制度により保護される元本（最大金額）として、正しいものはどれか。

<資料>

決済用預金	1,000万円
円普通預金（利息付き）	500万円
円定期預金	800万円

※R A銀行において借入れはない。

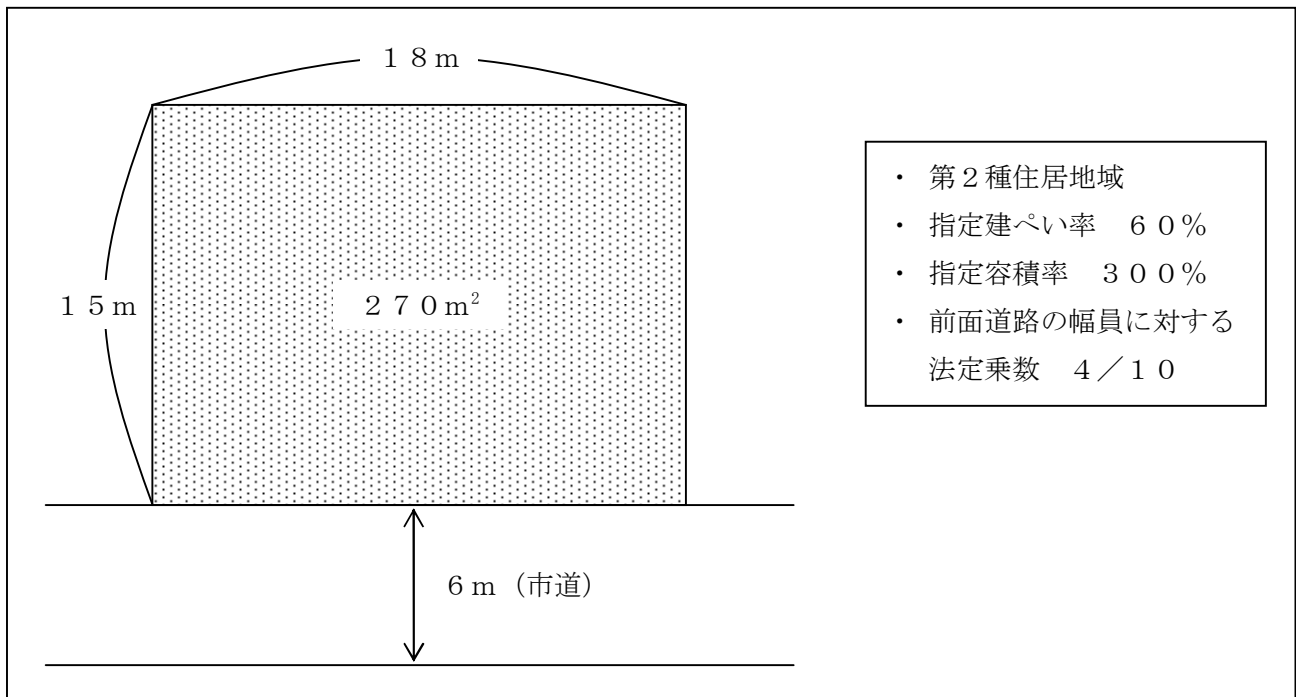
1. 1,000万円
2. 2,000万円
3. 2,300万円

【第3問】下記の（問6）について解答しなさい。

問6

建築基準法に従い、下記<資料>の土地に建築物を建築する場合の延べ面積（床面積の合計）の最高限度として、正しいものはどれか。なお、記載のない条件については一切考慮しないこととする。

<資料>



1. 162 m²
2. 648 m²
3. 810 m²

【第4問】下記の（問7）～（問10）について解答しなさい。

問7

馬場憲明さんが加入している生命保険（下記＜資料＞参照）の保障内容に関する次の記述の空欄（ア）にあてはまる金額として、正しいものはどれか。なお、保険契約は有効に継続しているものとし、憲明さんはこれまでに＜資料＞の保険から保険金および給付金を一度も受け取っていないものとする。

＜資料＞

保険証券記号番号 ○○△△××□□	定期保険特約付終身保険		
保険契約者 馬場 憲明 様	馬場 憲明 様 (男性) 契約年齢 32歳		保険契約者印
受取人 馬場 奈美恵 様 (妻)	(死亡保険金)	受取割合 10割	◇契約日（保険期間の始期） 2006年12月1日 （平成18年） ◇主契約の保険期間 終身 ◇主契約の保険料払込期間 60歳払込満了
◆ご契約内容			◆お払込みいただく合計保険料
終身保険金額（主契約保険金額） 600万円 定期保険特約保険金額 1,000万円 特定疾病保障定期保険特約保険金額 500万円 傷害特約保険金額 100万円 災害入院特約 [本人・妻型] 入院5日目から 日額5,000円 疾病入院特約 [本人・妻型] 入院5日目から 日額5,000円 不慮の事故や疾病により所定の手術を受けた場合、手術の種類に応じて（入院給付金日額の10倍・20倍・40倍）手術給付金を支払います。 成人病入院特約 入院5日目から 日額5,000円 リビング・ニーズ特約 ※妻の場合は、本人の給付金の6割の日額となります。			毎回 ××,×××円/月 [保険料払込方法（回数）] 団体月払い ◇社員配当金支払方法 利息をつけて積立 ◇特約の払込期間および保険期間 10年


馬場憲明さんが、平成26年中に急性心筋梗塞で死亡（急死）した場合に支払われる死亡保険金は、合計（ア）である。

1. 2,200万円
2. 2,100万円
3. 1,600万円

問 8

三上亨さんが加入しているガン保険（下記＜資料＞参照）の保障内容に関する次の記述の空欄（ア）にあてはまる金額として、正しいものはどれか。なお、保険契約は有効に継続しているものとし、亨さんはこれまでに＜資料＞の保険から保険金および給付金を一度も受け取っていないものとする。

＜資料＞

保険証券記号番号 (〇〇〇) △△△△△		保険種類 ガン保険 (愛称 *****)	
保険契約者	三上 亨 様	保険契約者印 	◇契約日 (保険期間の始期) 2012年10月1日 ◇主契約の保険期間 終身 ◇主契約の保険料払込期間 終身払込
被保険者	三上 亨 様 契約年齢 36歳 男性		
受取人	(給付金) 被保険者 様	受取割合 10割	
	(死亡給付金) 三上 淳子 様 (妻)		
◆ご契約内容		◆お払込みいただく合計保険料	
主契約 [本人型]	ガン診断給付金 初めてガンと診断されたとき 100万円 ガン入院給付金 1日につき 日額 10,000円 ガン通院給付金 1日につき 日額 5,000円 手術給付金 1回につき 手術の種類に応じてガン入院給付金 日額の10倍・20倍・40倍 死亡給付金 ガン入院給付金日額の100倍 (ガン以外の死亡の 場合は、ガン入院給付金日額の10倍)	毎回 ×,×××円	[保険料払込方法] 月払い

三上亨さんは、

- ・平成26年中に初めてガン（悪性新生物）と診断され、その後20日間入院し、給付倍率20倍の手術（1回）を受けた。
- ・退院後も継続して治療するため6日間通院した。

この場合、支払われる給付金は、合計（ア）である。

1. 123万円
2. 143万円
3. 146万円

問9

北川さん夫妻（いずれも会社員）が加入している生命保険は下表のとおりである。下表の契約A～Cについて、保険金・給付金が支払われた場合の課税関係に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

	保険種類	保険料 払込方法	保険契約者 (保険料負担者)	被保険者	死亡保険金 受取人	満期保険金 受取人
契約A	終身保険	月払い	夫	夫	妻	—
契約B	医療保険	月払い	妻	妻	夫	—
契約C	養老保険	月払い	妻	夫	妻	妻

1. 契約Aについて、妻が受け取った死亡保険金は、相続税の課税対象となる。
2. 契約Bについて、妻が受け取った入院給付金は、一時所得として所得税・住民税の課税対象となる。
3. 契約Cについて、妻が受け取った満期保険金は、贈与税の課税対象となる。

問10

高倉浩貴さんが契約している普通傷害保険の主な内容は、下記<資料>のとおりである。次の1～3のケース（該当者は高倉浩貴さんである）のうち、保険金の支払い対象とならないケースはどれか。なお、1～3のケースはいずれも保険期間中に発生したものである。また、<資料>に記載のない事項については一切考慮しないこととする。

<資料>

保険種類	普通傷害保険
保険期間	1年間
保険契約者	高倉 浩貴
被保険者	高倉 浩貴
死亡・後遺障害保険金額	5,000万円
入院保険金日額	5,000円
通院保険金日額	3,000円

※特約は付帯されていない。

1. ハイキングに行った際に転んでケガをし、破傷風に感染したため、入院した。
2. 休日に行った草野球の試合中に手にボールが当たり、骨折をして通院した。
3. 地震により発生した火災が原因で、手にやけどを負い通院した。

【第5問】下記の（問11）～（問13）について解答しなさい。

問11

下記の3人の会社員のうち、平成26年分の所得税において確定申告を行う必要がない人は誰か。なお、<資料>に記載のない条件については一切考慮しないこととする。

<資料：3人に関するデータ（平成26年12月31日時点）>

氏名	年齢	給与収入 (年収)	勤務先	備考
大垣直樹	30歳	500万円	ST銀行	<ul style="list-style-type: none"> 勤務先の給与収入のみ。 勤務先で年末調整を受けている。 平成26年中に住宅を取得し、住宅借入金等特別控除の適用を受ける。
細川智行	35歳	750万円	SK広告会社	<ul style="list-style-type: none"> 勤務先の給与収入以外に一時所得の金額が10万円、雑所得の金額が5万円ある。 勤務先で年末調整を受けている。
谷口正志	42歳	2,800万円	SP商事	<ul style="list-style-type: none"> 勤務先の給与収入のみ。

※給与収入（年収）は平成26年分の金額である。

1. 大垣直樹
2. 細川智行
3. 谷口正志

問12

下記は、加入者が負担する掛金と所得控除の関係について示した表である。下表の空欄（ア）、（イ）にあてはまる語句の組み合わせとして、正しいものはどれか。

加入者が負担する掛金	所得控除
確定拠出年金（個人型）	（ア）の対象
国民年金基金	（イ）の対象
小規模企業共済	小規模企業共済等掛金控除の対象

1. （ア）小規模企業共済等掛金控除 （イ）社会保険料控除
2. （ア）社会保険料控除 （イ）小規模企業共済等掛金控除
3. （ア）生命保険料控除 （イ）生命保険料控除

問 13

青山勇次さんは、個人でアパートの賃貸経営を行っている（青色申告者である）。青山さんの平成26年分の所得および所得控除が下記＜資料＞のとおりである場合、青山さんの平成26年分の所得税の額として、正しいものはどれか。なお、青山さんは、平成26年中は不動産所得のほかに所得はなく、税額控除や源泉徴収税額、復興特別所得税、予定納税等については考慮しないこととする。

＜資料＞

[平成26年分の所得]

不動産所得の金額 930万円

※青色申告特別控除額を控除した後の金額である。

[平成26年分の所得控除]

所得控除の合計額 230万円

※社会保険料控除、基礎控除など、所得金額から差し引かれる金額をいう。

※総所得金額から、所得控除を行って、課税総所得金額を算出する。

＜課税総所得金額に対する所得税の計算方法＞

課税総所得金額 × (所得税の速算表の) 税率 - (所得税の速算表の) 控除額

＜所得税の速算表＞

課税総所得金額		税率	控除額
1,000円 から	1,949,000円 まで	5%	0円
1,950,000円 から	3,299,000円 まで	10%	97,500円
3,300,000円 から	6,949,000円 まで	20%	427,500円
6,950,000円 から	8,999,000円 まで	23%	636,000円
9,000,000円 から	17,999,000円 まで	33%	1,536,000円
18,000,000円 以上		40%	2,796,000円

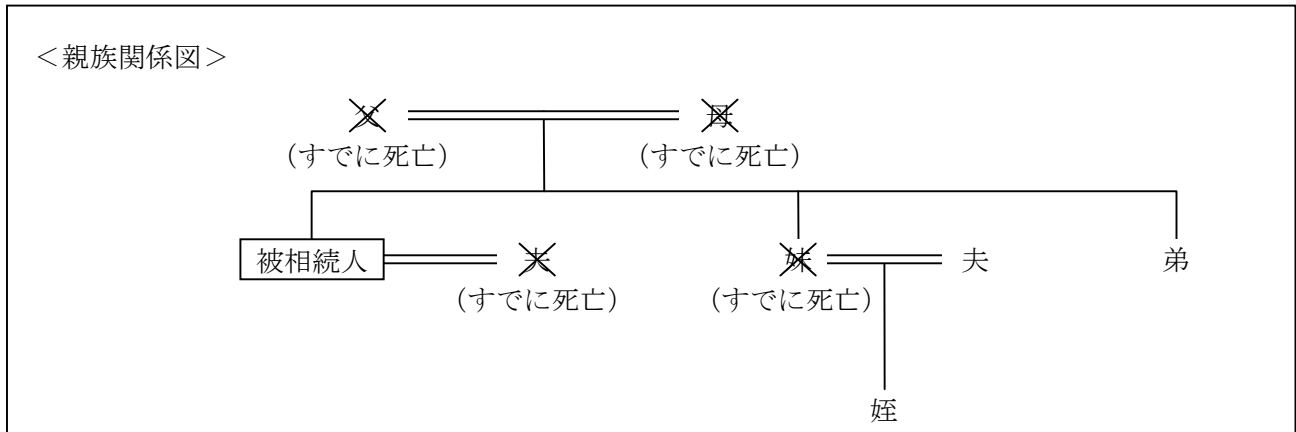
(注) 課税される所得金額の1,000円未満の端数は切り捨てること。

1. 1,610,000円
2. 1,533,000円
3. 974,000円

【第6問】下記の（問14）について解答しなさい。

問14

平成26年8月30日に相続が開始された被相続人の＜親族関係図＞が下記のとおりである場合、民法上の相続人および法定相続分の組み合わせとして、正しいものはどれか。なお、記載のない条件については一切考慮しないこととする。



1. 弟 1
2. 弟 1/2 姪 1/2
3. 弟 3/4 姪 1/4

【第7問】下記の（問15）～（問20）について解答しなさい。

<設例>

岡田久雄さんは、株式会社KBに勤務する会社員である。久雄さんは定年を2年後に控えており、退職するつもりでいることから、今後の生活設計についてFPで税理士でもある景浦さんに相談をした。なお、下記のデータはいずれも平成26年9月1日現在のものである。

[家族構成（同居家族）]

氏名	続柄	生年月日	年齢	職業
岡田 久雄	本人	昭和31年4月 6日	58歳	会社員
松乃	妻	昭和34年4月15日	55歳	パートタイマー
清美	長女	昭和61年7月 7日	28歳	会社員

[保有資産（時価）]

（単位：万円）

金融資産	
普通預金	400
定期預金	1,800
財形年金	420
個人向け国債	200
上場株式	470
生命保険（解約返戻金相当額）	430
不動産（自宅マンション）	2,900
その他（動産等）	200

[負債]

住宅ローン（自宅マンション）：400万円（債務者は久雄さん、団体信用生命保険付き）

自動車ローン（自家用） ： 65万円（債務者は久雄さん）

[その他]

上記以外については、各設問において特に指定のない限り一切考慮しないこととする。

問 1 5

F P の景浦さんは、岡田家の平成 2 6 年 9 月 1 日時点のバランスシートを作成した。下表の空欄 (ア) にあてはまる金額として、正しいものはどれか。なお、<設例>に記載のあるデータに基づいて解答することとし、<設例>に記載のないデータについては一切考慮しないこととする。

<岡田家のバランスシート>

(単位：万円)

[資産]		[負債]	
金融資産		住宅ローン	×××
普通預金	×××	自動車ローン	×××
定期預金	×××		
財形年金	×××	負債合計	×××
個人向け国債	×××		
上場株式	×××		
生命保険 (解約返戻金相当額)	×××	[純資産]	(ア)
不動産 (自宅マンション)	×××		
その他 (動産等)	×××		
資産合計	×××	負債・純資産合計	×××

1. 6,355 (万円)
2. 6,820 (万円)
3. 7,285 (万円)

問 1 6

久雄さんは、地震への備えとして、現在契約している火災保険に地震保険を付帯することを考えており、F P の景浦さんに相談をした。景浦さんが久雄さんに説明する際に使用した地震保険に関する下表の空欄 (ア) ~ (ウ) にあてはまる語句の組み合わせとして、最も適切なものはどれか。

保険の目的	居住用建物とその家財
契約方法	地震保険単独での契約はできず、火災保険に付帯して契約する
保険金額	<ul style="list-style-type: none"> ・ 火災保険の保険金額の (ア) の範囲内 ・ 居住用建物は (イ)、家財は (ウ) が上限
保険料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建物の構造や地域で異なる ・ 築年数や免震・耐震性能に応じて 4 種類の割引制度がある

1. (ア) 30%~50% (イ) 5,000万円 (ウ) 1,000万円
2. (ア) 30%~50% (イ) 3,000万円 (ウ) 1,000万円
3. (ア) 30%~80% (イ) 5,000万円 (ウ) 1,500万円

問 17

久雄さんは、定年退職後は、退職一時金の一部を老後の生活資金に充てようと思っている。仮に、退職一時金のうち1,500万円を年利2%で複利運用しながら20年間で均等に取り崩すこととした場合、毎年の生活資金に充てることができる金額として、正しいものはどれか。なお、下記<資料>の3つの係数の中から最も適切な係数を選択して計算し、円単位で解答すること。また、税金や記載のない事項については一切考慮しないこととする。

<資料：係数早見表（年利2.0%）>

	現価係数	減債基金係数	資本回収係数
20年	0.6730	0.0412	0.0612

※記載されている数値は正しいものとする。

1. 504,750円
2. 618,000円
3. 918,000円

問 18

定年退職時には、久雄さんに対して勤務先から退職一時金として2,300万円が支給される見込みである。所得税における退職所得に関する次の記述の空欄（ア）、（イ）にあてはまる語句の組み合わせとして、正しいものはどれか。なお、久雄さんの勤続年数は38年とし、障害者になったことに基因する退職ではないものとする。

<参考：退職所得控除額の求め方>

勤続年数	退職所得控除額
20年以下	勤続年数×40万円（最低80万円）
20年超	800万円+70万円×（勤続年数-20年）

- ・ 退職所得は（ア）の対象となる。
- ・ 久雄さんの退職所得の金額は、（イ）である。

1. （ア）分離課税 （イ）240万円
2. （ア）分離課税 （イ）120万円
3. （ア）総合課税 （イ）120万円

問 19

松乃さんは、現在、年間給与収入100万円のパートタイマーとして働いており、国民年金の第3号被保険者である。久雄さんが60歳で定年退職した場合、その後、松乃さんが60歳になるまでの国民年金の被保険者に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。なお、松乃さんは、今後も現在と同じ条件のパートタイマーとして仕事を続けるものとする。

1. 国民年金の第1号被保険者とされる。
2. 国民年金の第2号被保険者とされる。
3. 国民年金の第3号被保険者のままである。

問 20

久雄さんは、会社の定期健康診断で異常を指摘され、平成26年5月に2週間ほど入院をして治療を受けた。その際の病院への支払いが高額であったため、久雄さんは健康保険の高額療養費制度によって払戻しを受けたいと考え、FPの景浦さんに相談をした。久雄さんの平成26年5月の総医療費が70万円であった場合、次の記述の空欄（ア）、（イ）にあてはまる語句の組み合わせとして、正しいものはどれか。なお、久雄さんは全国健康保険協会管掌健康保険の被保険者で、所得区分は「一般」である。

<70歳未満の者：医療費の自己負担限度額（1ヵ月当たり）>

所得区分	医療費の自己負担限度額
上位所得者	150,000円 + (総医療費 - 500,000円) × 1%
一般	80,100円 + (総医療費 - 267,000円) × 1%
低所得者	35,400円

※多数該当については考慮しない。

- ・ 久雄さんの自己負担額は、総医療費の（ア）に当たる金額である。
- ・ 久雄さんに高額療養費制度により払い戻される金額は、（イ）である。

1. (ア) 3割 (イ) 125,570円
2. (ア) 3割 (イ) 84,430円
3. (ア) 2割 (イ) 55,570円

模範解答

ファイナンシャル・プランニング技能検定 3級実技試験(資産設計提案業務)
平成26年9月14日実施

厚生労働大臣指定試験機関

特定非営利活動法人(NPO法人)

日本ファイナンシャル・プランナーズ協会

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10
3	1	3	1	2	2	2	2	1	3

問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18	問19	問20
2	1	3	2	1	1	3	2	1	1

{ 100点満点 } (各5点)